

令和6年度
南山城村プロジェクト活動報告

サイクリングとロゲイニングの融合による 村内周遊サイクリングコース開発 ～相楽東部の未来づくり推進～

経営経済学部 経営学科
スポーツビジネスコース
横山誠ゼミナール

2024年度の年間スケジュール

4月 年度活動プランの作成

5月 村内スポットの発掘①
アイデアコンテストの挑戦

6月 村内スポットの発掘②

7月 重点スポットの試走・確認

8月 南山城村役場(岸田さん)との
ミーティング

10月 コース案の作成

11月 トライアルイベント①

12月 トライアルイベント②

1月 アンケート集計

2月 発表資料の作成
野外活動ミーティング

3月 京都府報告会

目次

1. 南山城村とのつながり
2. 先輩たちの軌跡
3. 今年度の活動
4. 今後に向けて



世帯数→1,203世帯

人口 →2,440人 (R.1月31日現在)

平均年齢→58.4歳
(日本の平均49.9歳)

1. 南山城村とのつながり

2009年：高尾地区において、お祭り参加や野菜作りなどを通じて地域の農家さんとの農村交流を開始した

2013年：本学と南山城村が「**包括連携協定**」を締結した

2015年：高尾地区に古民家「薫笑庵」を借りて活動を拡大

2018年：村おこしを目的に田山地区でウェルネスウォーキングコース開拓開始



写真：本学ホームページ（2013.8.29）より

ウェルネスウォーキングの課題

- ① ウォーキングのため田山地区に限られた活動となってしまった
- ② 南山城村全体の魅力を最大限に詰め込むことが難しい

村長からのアドバイス

⇒ 村のさまざまなコンテンツを織り込んではいかがでしょうか

2.先輩たちの軌跡 (2017~2023年度)

—10年以上前の幻の里道を切り拓く—



2017年度

2018年度

2019年度

役場への提案

ウォーキングプロジェクト始動

ウォーキングマップ作成(初版)



2020年度

2021年度

2022年度

2023年度

コース改善

ウォーキングマップ作成(二版)

クイズラリー作成

効果検証

【2023年度のポスター】

活動地域：南山城村

ウエルネスウォーキングイベントによるアフターコロナにおけるアウトドアツーリズムの可能性

大阪国際大学 学生：川種文貴、松原弘明、水野翔太、松岡明歩、奥能本匠悟 指導教員：横山謙

背景と目的
大阪国際大学では2018年からウォーキングコース開発プロジェクトをスタートさせたが、コロナの影響により集客を行う事が出来ていなかった。今年度コロナが落ち着いた事を機に、幅広い世代の需要に応じたウォーキングコースを開いて頂き、ウエルネスウォーキングの効果を検証を行った。また、食文化体験による地域活性化の可能性、自分達が開発したクイズラリーの高評価を調査した。

取り組んだ課題
ウォーキングだけでなく、幅広い世代の参加者に楽しんで頂けるような取り組み（食文化体験と休憩スポットの設置とクイズラリーの作成等）に取り組む。アウトドアスポーツツーリズムの可能性について検討を行った。

活動概要

効果測定	クイズラリー	コース整備
食文化体験 森林ウォーキングだけでなく、村内の地の産品を活用した体験を考へ、地元産品を使用した食文化体験で地域活性化や観光促進の新たな可能性を検討した。	休憩スポットの設置 ウォーキングコース内に休憩スポットを設け、参加者の力一杯に合わせて休憩を取れる場所を検討した。	クイズラリーの作成 ウォーキング体験中に、さらに南山城村の関心を深めるために、楽しく読めるようなクイズ（歴史文化、自然物）を活用し、イラストの付加価値を検討した。
課題に対する成果 食文化を体験した参加者からは、「地元の食文化体験があること、参加してみたいという気持ちになった」という感想を頂いた。 食で地域活性化に繋げる可能性があることが分かった。	課題に対する成果 休憩スポットを設けることで、高齢者の参加者から「気持ちよく休ませて頂ける」という感想を頂いた。自分達で考えた「 紅葉みながらウォーキング体験を楽しめる 」ことが理解できた。	課題に対する成果 クイズラリーを行うことで、参加者から「知らないことが多かった」という声や、子どもたちから「楽しかった」という感想を頂いた。コミュニケーションが促進された。 顔と心にもつながる歴史文化や、自然の魅力を伝えるような取り組みが広がった。
取り組みに対する私達の想い 運動後、南山城村の特産を使ったまったり焼きのスイーツを食べさせて頂き、お菓子の足しになり、参加者の皆さんに喜んで食べていただく方が多く、設置して良かったと感じた。今後ぜひメニューを、自然とスイーツを繋げるような休憩スポットも設けたい。	取り組みに対する私達の想い 一般の高齢者には、ハードなウォーキングコースだったようだが、休憩スポットを活用していただける方が多く、設置して良かったと感じた。今後ぜひメニューを、自然とスイーツを繋げるような休憩スポットも設けたい。	取り組みに対する私達の想い 幅広い世代の方々にクイズラリーに参加して頂けて、コミュニケーションも増え、ウォーキング体験自体が楽しくなったと感じた。楽しく、みんなでの活動のことについて学ぶという事は非常にいい入り口やと思う。

まとめ

①子供からシニアまで自然、食文化、地域特性に触れていただき、シニア層には効果が現れ健康増進のエビデンスをえることができます。
②ウエルネスウォーキングだけでなく、その他の取り組みも展開しアウトドアツーリズムの可能性を共有することができました。
③地域のイベント等で積極的に活用していただき、地元住民の認知度や愛着を高めることが求められると感じました。
④様々なニーズに対応した新たなアクティビティの開発が必要であると感じました。

協力：南山城村産業観光課、合同会社南山城観光

3.今年度の活動

◇目標

①ウォーキングにとどまらない新しい取り組みをスタートさせる

⇒サイクリング

②遊びの要素を取り入れた活動を展開する

⇒ロゲイニング

※設置されたポイントをできるだけ多く
制限時間内に回り得点を競うスポーツ

★自然＋アウトドアを楽しむことができる

「サイクリング × ロゲイニング」に挑戦



3.今年度の活動



年度活動プラン
の作成

スポットの発掘
(野殿エリア)

南山城村役場と
Zoom打ち合わせ

トライアルイベント①
(南エリア)

4月

6月

8月

11月

魅力再発見

検討・絞り込み

実践

5月

7月

10月

12月

村内スポットの発掘
(高尾・田山エリア)

重点スポット
の試走・確認

コース案の
作成

トライアルイベント②
(北エリア)



イベント開催に向けてコース作成



北エリア:大河原～月ヶ瀬



南エリア:高山ダム



11月24日実施：南エリアトライアル

自転車約1時間
総距離6.5km

サイクリング

①諏訪神社



③高山橋



⑤茶畑



初来村者への魅力発信

②ねこぱん



④高山ダム



12月14日実施：北エリアトライアル

自転車約2時間
総距離10km

サイクリング
ロゲイニング

食文化体験

①恋路橋



③大河原大橋



シカ肉
ジビエカレー



原木しいたけ焼き



景観・歴史・食文化体験

④ミッシーのぱん



ブルーベリージャム



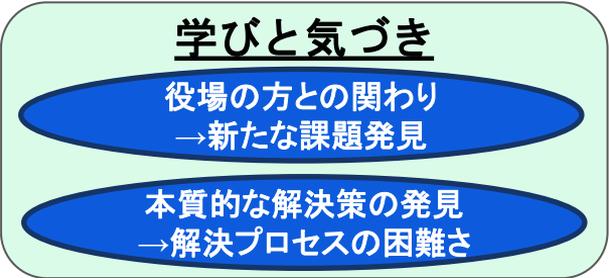
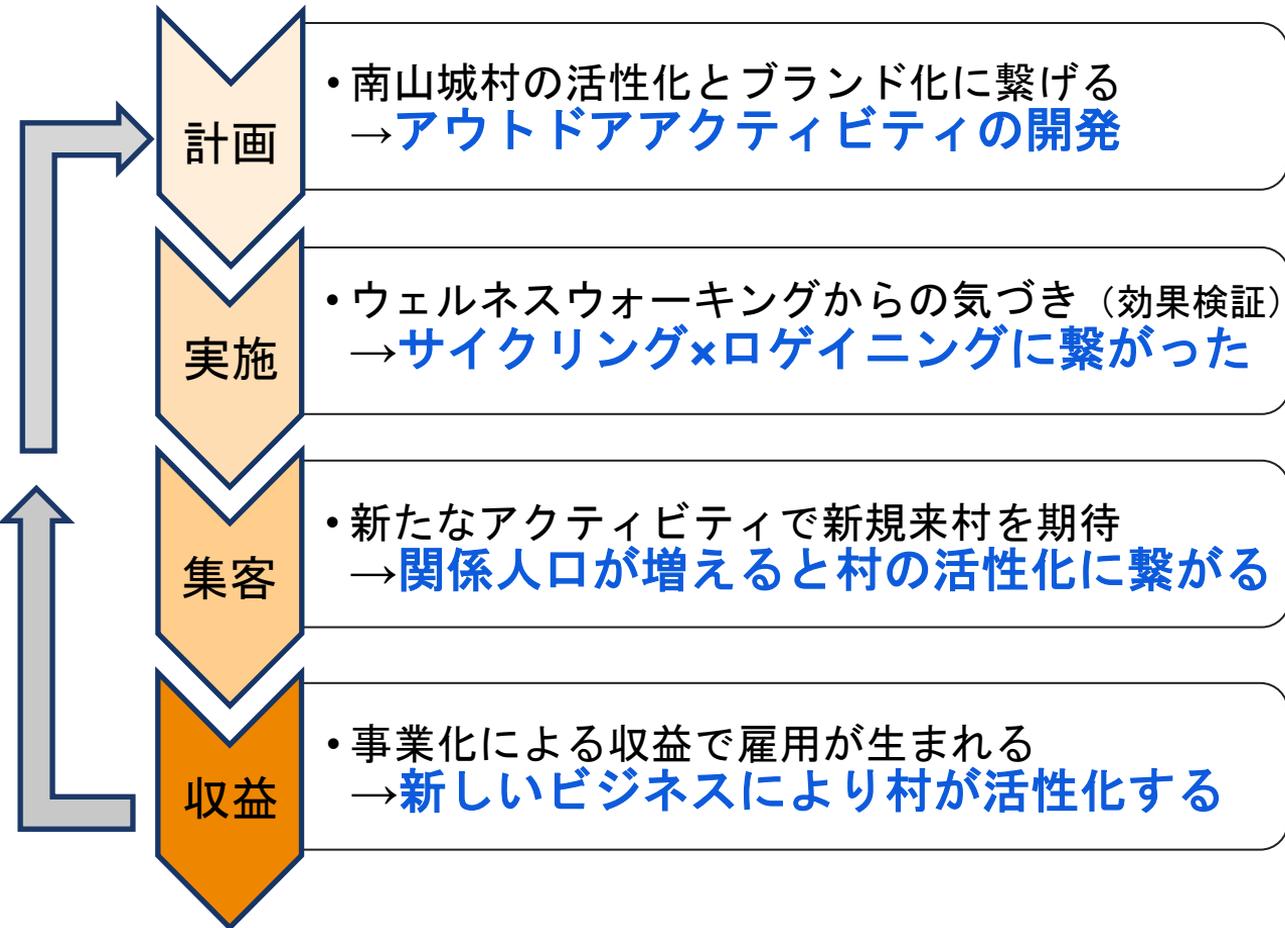
②恋志谷神社



⑤道の駅

私たちの学びと村の将来に向けて

【PBLでの学びのステップアップ】



4.今後に向けて

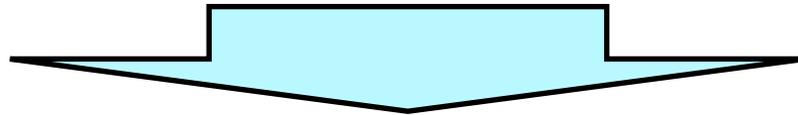
【地域の方との交流拡大】 【トライアルイベント実施】 【ツーリングへの展開】

- ・ 住民アンケートを実施し交流機会を増やす
- ・ 地域の特産物をイベントに活用する(食文化体験)

- ・ 一般の方に向けたイベントを実施する
- ・ アンケートによるフィードバックを行う

- ・ バイクにより、南山城村全域の周遊を可能にする
- ・ ツーリングによるトライアルイベント実施

再発見した南山城村の魅力を、住民の方とともに多くの人に発信し、事業化・ビジネス化への展開を目指す



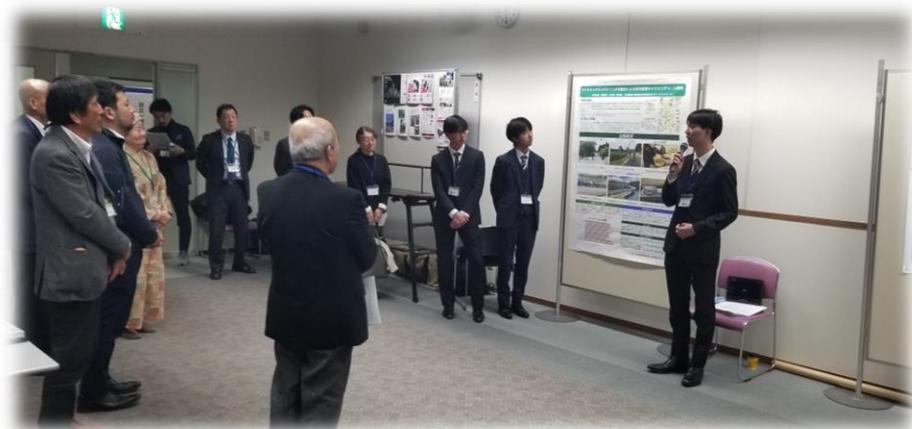
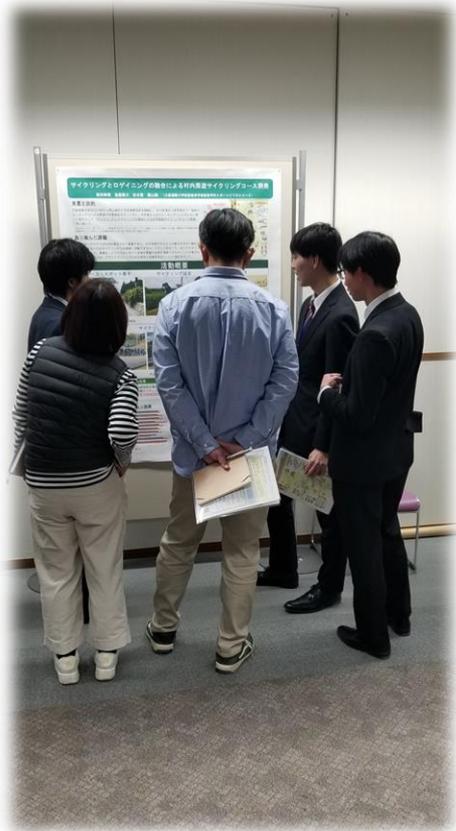
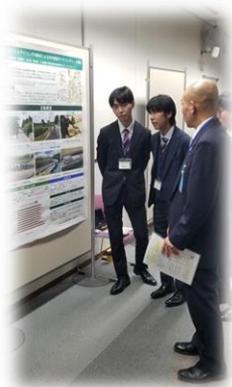
高い志を持って村全域に明かりを灯す！

成果発表①

関西野外活動ミーティング

2025年2月23日（日）

大阪府立男女共同参画・
青少年センター（ドーンセンター）



・ 関西圏の大学関係者(教員・学生)、企業、青少年団体、野外活動関連団体等、多くの参加者と意見交換を行った。

成果発表②

京都府報告会

大学・学生とともにのぼす
京都プロジェクト成果報告会

2025年3月15日（土）

京都経済センター
京都産業会館ホール



登壇発表の様子

【採択事業数52件 登壇数5大学】



ポスター発表の様子

- ・ 京都府大学政策課からの依頼により壇上で発表を行った。
- ・ 南山城村平沼村長からの評価とコメントが読み上げられた。
- ・ 西脇京都府知事から今年度の取り組みについて質問を受けPBLの変遷を説明した。
- ・ 他大学の学生や教職員、団体、企業の方などから興味関心を持っていただいた。

一年間の学びと成長

【学生コメント】

- ・ 新たな取り組みとして1からスタートし、学生間で切磋琢磨しながら数多くの困難を乗り越えることができた。
- ・ 2025年度は2024年度の取り組みを継続し修正点や改善点を見直し地域活性化など更に充実した新たな事に挑戦していきたい。

【教員コメント】

- ・ 1年間を通じたPBLは楽しい事ばかりではなく、外部との調整や結果を積み上げていく難しさを知る良い機会となった。
- ・ 年度末の成果報告では、自分達の活動を振り返る機会となり多くの方との意見交換から評価や成果を感じ取れたと思う。

謝辞

今年度のPBL活動にあたり、ご協力ご支援を賜りました
南山城村平沼村長をはじめ、関係者の皆様に心から感謝
申し上げます。

